

中学校体育授業「剣道」における段階的指導の検討

木原 資裕*, 園山 由華**, 林 祐輔**, 中野竜太郎**, 堀江 修平**
金森 優太**, 秋津 久範**, 篠原 健真***, 田村 律子***

(キーワード：中学校体育授業, 剣道, 段階的指導)

1. はじめに

平成18年に教育基本法が60年ぶりに大幅改正がなされている。前文には「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、**伝統を継承し、**未来を切り拓く教育の基本を確立し、」と下線部の文字が加えられている。また、第2条(教育の目標)では新たに5つの目標が掲げられている。その第5号の規定には「**伝統と文化を尊重し、**それをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」とある。

さらに、平成24年の新学習指導要領における武道領域の解説には、「**武道は、**武技、武術などから発生した**我が国固有の文化であり、**相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう運動である。また、**武道に積極的に取り組むことを通して、**武道の**伝統的な考え方を理解し、**相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。」(上記太文字は筆者による)と示され、平成24年4月より「**武道**」が中学校保健体育科の授業において必修化されている。

上記の教育基本法から指導要領改訂の流れの中で「**伝統を継承**」・「**伝統と文化を尊重**」する教材として、中学校保健体育科における**武道**が担わなければならないものは極めて重要であると言わざるを得ない。

一方、**剣道指導者**に焦点を絞って言及すれば、本学を含め、他の教員養成系大学や学部においても、**剣道授業**を全く経験しなくとも中学校体育教員免許が取得できるカリキュラム構成となっている。よって、**剣道経験のない指導者**により、**剣道授業**がなされることが想定される。このような状況に対して、文部科学省は**地域指導者の活用方策**、その**支援体制の強化方策**などについての実践研

究を行う目的で「**武道等指導推進事業**」を平成25年度よりスタートさせている。全日本剣道連盟もその事業に参画し、「**授業協力者養成講習会**」を全国的に展開している。そこでは、**剣道指導経験のない中学体育教師**を一般社会人である**地域剣道指導者**がどのようにサポートし、**剣道授業**を充実させていくかが試行されている。

全日本剣道連盟のこうした取り組みとともに、大学での**剣道指導法**の授業を充実させ、**中学校体育授業**で**剣道指導**ができる教員の養成が急務であると思われる。

筆者らは、鳴門教育大学大学院の授業「**教育実践フィールド研究**」において、これまで平成23～25年の3年間にわたり、**剣道経験のない教育実習生**が**剣道授業**を行う状況をビデオ撮影し、**剣道経験のない指導者**が陥りやすい問題点を指摘してきた。

今回の「**教育実践フィールド研究**」では、鳴門教育大学附属中学校より「**剣道授業における段階的指導のあり方**」とのテーマで研究協力要請があり、**中学校体育授業**での**剣道指導法**のあり方を改善することを目的として取り組むこととなった。

2. 平成27年度附属中学校における剣道授業

本研究の**剣道授業実践**は平成27年11月および12月になされたものである。

- ①対象：鳴門教育大学附属中学校1年生の男子2クラス77名・女子2クラス77名
- ②授業者：大学院生A(剣道指導経験なし・剣道授業受講経験あり・男子23歳)男子担当
大学院生B(剣道指導経験あり・剣道四段・女子24歳)女子担当
- ③期間：平成27年11月25日～12月18日

*なお、期間中、男子授業において大雨警報による休校や学校行事による授業変更および短縮授業等があり、予定した授業時数を実施することができなかつ

*鳴門教育大学芸術・健康系教育部

**鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(保健体育)

***鳴門教育大学附属中学校

たため、今回は女子クラスを中心にした内容の検討を行うこととし、一部授業感想において、男子データを使用することとした。

1) 5時間授業概要

授業指導案として下記のものを作成した。なお、毎回授業終了時に授業評価と感想を記入する調査用紙も配布した。

1 日 時 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 第 2 校時

2 本時の指導 (1/5)

(1) 目標

- ・剣道の特性を知り、積極的に取り組むことができる。
- ・剣道の予備の動きができる。

(2) 展開

段階	学習内容 (ねらい) 及び学習活動	教師の支援○及び評価規準▲
導入 10分	1. 整列、挨拶 2. 剣道授業についての説明 3. 本時のねらいと学習内容の確認	○剣道の特性、基本的な知識を教える。 ○礼法指導の必要性を話し、身に着けさせ、今後授業の最初と最後にきちんと礼法ができるように指導する。
展開 30分	4. 1対1に慣れるゲーム ・真似する動き ・違う動き	○たくさんの友達とできるようにペアを変えて、1対1で相手と目を合わせることや距離感に慣れるようにする。 ▲積極的に取り組むことができるか。
	5. 声出し 6. 新聞紙剣道	○距離をだんだん遠くになり、ランダムな順番に変えて、声をより大きく出すような工夫をする。 ○まずは子どもたちに考えさせてから、教師が正しい握り、構え、足の動きを指導するようにする。 ▲剣道の予備動きができるか。
終結 10分	7. 本時のまとめ 8. 次回の内容確認 9. 整列、挨拶 (礼)	○今日の目標が達成できたか確認する。 ○ワークシートを配布する →書き方の説明をする ○次回は、実際に防具を身に付ける練習や竹刀を持つことを伝える。

1 日 時 平成 27 年 11 月 30 日 (月) 第 4 校時

2 本時の指導 (3/5)

(1) 目標

- ・竹刀を正しく持ち、剣道の基本動作ができるようになる。

(2) 展開

段階	学習内容 (ねらい) 及び学習活動	教師の支援○及び評価規準▲
導入 10分	1. 整列、礼 2. 前回の復習 3. 本時のねらいと学習内容の確認	○来た人から防具をつけるように指示する。 ○宿題のワークシートを集める。
展開 30分	4. ドリルゲーム ・ジグザグ送り足	○送り足について理解させ、スムーズに足が動かせるように指導する。 ○送り足と踏み込み足を一緒に教えることで、剣道の足の動きの流れが意識できるようにする。
	5. 素振りの練習 ・正面打ち	○構えの状態は、竹刀の先が相手の喉元になっているか確認させる。 ○相手の面に竹刀が届くように意識するように指導する。 ○全員で声を合わせて練習させる。声が出ていない生徒には声かけを行う。 ▲竹刀を正しく持って素振りができるか。
終結 5分	6. 防具の片づけをする	○一人一つ責任をもって防具を片付け、防具を大切に扱うように意識させる。
	8. 本時のまとめ 9. 次回の内容確認 10. 整列、挨拶	○今日の目標が達成できたか確認する。 ○ワークシートを受け取る ○ワークシートを配布する →水曜日の授業で持ってくるように伝える ○次回は、素振りの復習と胴打ちの練習をすることを伝える。

1 日 時 平成 27 年 11 月 27 日 (金) 第 3 校時

2 本時の指導 (2/5)

(1) 目標

- ・正しい防具の付け方を知り、足の基本的な動きができる。

(2) 展開

段階	学習内容 (ねらい) 及び学習活動	教師の支援○及び評価規準▲
導入 10分	1. 整列、礼 2. 前回の復習 3. 本時のねらいと学習内容の確認	○礼法がきちんとできているか確認する。 ○宿題のワークシートを集める。
展開 30分	4. 剣道における体ほぐし運動 ・竹刀立てダッシュ	○1対1で相手と呼吸を合わせて竹刀をキャッチするように指導する。 ○竹刀を簡単に落とさないなど、竹刀を大切に扱うような気持ちにさせる。
	5. 防具をつける練習 ・垂れ ・胴	○垂れ、胴の付け方の手本を示し、生徒に見えるように近くで指導する。 ○各自付ける練習をするときは、わからない生徒に個別で指導する。 ▲防具を正しく身に付けることができるか。
終結 5分	6. 防具をつけて基本動作を練習する。 ・歩み足、送り足	○歩み足と送り足の違いを理解させて、送り足に慣れるように何度も個人練習をできるようにする。 ▲足の基本的な動きができるか。
	7. 防具の片づけをする	○一人一つ責任をもって防具を片付け、防具を大切に扱うように意識させる。
終結 5分	8. 本時のまとめ 9. 次回の内容確認 10. 整列、挨拶	○今日の目標が達成できたか確認する。 ○ワークシートを受け取る ○ワークシートを配布する →月曜日の授業で持ってくるように伝える ○次回は、防具を自分で身に付けて、竹刀を使って素振りを練習することを伝える。

1 日 時 平成 27 年 12 月 2 日 (水) 第 5 校時

2 本時の指導 (4/5)

(1) 目標

- ・剣道の基本技について知り、打ち方、受け方ができるようになる。

(2) 展開

段階	学習内容 (ねらい) 及び学習活動	教師の支援○及び評価規準▲
導入 10分	1. 整列、礼 2. 前回の復習 3. 本時のねらいと学習内容の確認	○来た人から防具をつけるように指示する。 ○宿題のワークシートを集める。
展開 30分	4. ドリルゲーム ・正面打ち (素振り)	○素振りのポイントをおさえながら、送り足も一緒に復習できるようにする。
	5. 胴打ちの練習 ・打ち方 ・受け方	○最初は新聞紙で行い、慣れてたら竹刀を使うようにする。 ○ペアで交互に打つ方法について模範を見せる。 ○隣、前後のスペースをきちんとあけて安全に留意して取り組むようにさせる。 ○ペアで練習し、慣れてきたら組ごとにまわるように指示する。→その際に礼法も必ず行う ○手首を返して、竹刀の刃の部分で打突部位が打てるように指導する。 ▲竹刀の刃筋正しく胴打ちができるか。
終結 5分	6. 防具の片づけ	○一人一つ責任をもって防具を片付け、防具を大切に扱うように意識させる。
	8. 本時のまとめ 9. 次回の内容確認 10. 整列、挨拶	○今日の目標が達成できたか確認する。 ○ワークシートを受け取る ○ワークシートを配布する →金曜日の授業で持ってくるように伝える ○次回は、面うちの復習と面抜き胴 (応用技) に挑戦して終わることを伝える。

- 1 日 時 平成 27 年 12 月 4 日 (金) 第 3 校時
 2 本時の指導 (5/5)
 (1) 目標
 ・相手と呼吸を合わせて、面抜き胴に挑戦する。
 (2) 展開

段階	学習内容 (ねらい) 及び学習活動	教師の支援○及び評価規準▲
導入 10分	1、整列、礼 2、前回の復習 3、本時のねらいと 学習内容の確認 相手と呼吸を合わせて、面抜き胴に挑戦しよう	○来た人から防具をつけるように指示する。 ○宿題のワークシートを集める。
展開 30分	4、素振り ・正面打ち ・全員で 5、胴打ちの練習 ・二人組 (打つー受ける) 6、面抜き胴の練習 ・二人組 (面ー胴) ・新聞紙棒→竹刀 ・打ち方 ・残心の仕方 7、防具の片づけ	○素振りのポイントをおさえながら、送り足も一緒に復習できるようにする。 ○隣、前後のスペースをきちんとあけて安全に留意して取り組むようにさせる。 ○技のイメージをつかみやすいように模範を見せる。 ○面をかむすために、胴を打つ方は斜め右に出るように指導する。 ○残心まできちんとできるように指導する。 ▲相手と呼吸を合わせて面抜き胴ができていくか。 ○一人一つ責任をもって防具を片付け、防具を大切に扱うように意識させる。
終結 5分	8、本時のまとめ 9、授業全体のまとめ 10、整列、挨拶 ・ワークシートを受けとる ・正座、礼	○今日の目標が達成できたか確認する。 ○ワークシートを配布する →体育委員が代表で集めて、担当の先生に渡すよう伝える。 ○何人かの生徒に剣道の授業で学んだことや感想を言ってもらおう。

上記の指導案をさらにまとめてみると次のようになる。

	授業内容
1	○オリエンテーション (礼法指導も含む) ○剣道にふれる ・1対1に慣れるゲーム (真似する動き, 違う動き) ・ペアでの声出し ・新聞紙での棒を使って、握り方, 構え方, 打ち方を学習する
2	○剣道の基本動作を身につける ・剣道における体ほぐし運動 ・竹刀を使った握り方, 構え方の確認 ・素振り ・足さばき
3	○剣道の基本技を身につける① ・前時の復習 ・胴, 垂れの装着 ・胴打ちの練習 (打ち方, 受け方)
4	○剣道の基本技を身に着ける② ・前時の復習 ・胴打ちの復習 ・面打ちの練習 (打ち方, 受け方)
5	○基本技の応用技に挑戦する ・胴打ち, 面打ちの復習 ・面抜き胴の練習 ・面抜き胴選手権 ○まとめ

<その他留意事項>

- ・毎時間、礼儀指導を徹底する。
- ・生徒の実態に応じて、多少授業の内容を変更する可能性がある。
- ・毎時間の授業終わりに、生徒にワークシートを配布し、記入してもらう。
(次の日に体育の授業がない場合は、体育委員がワークシートを回収し、体育の担当の先生のところに持っていくようにする)

2) 授業分析

本研究の剣道授業は附属学校長の許可を得て、すべて、デジタルカメラで収録し、授業ごとにパソコンに取り込み動画ファイルを作成した。その動画をパソコン上で視聴しながら、段階的指導につながる場面を静止させ、画面コピーにより、その場面を画像として収集し、パソコン上に保存した。

また、授業の感想も授業ごとにエクセルに記入し、KJ法 (川喜田 1970) により、その内容分析をおこなった。この授業内容の分析は、平成 27 年度の大学院授業「教育実践フィールド研究」を受講した 5 名と担当教員により実施した。内 2 名は剣道経験者 (剣道四段 23 歳と剣道七段 60 歳) であった。

3. 授業実践

《段階的指導法 1》 素足の抵抗感対策

寒さ対策と素足の抵抗感を押さえるため、1 時間目は体育館シューズで行った。

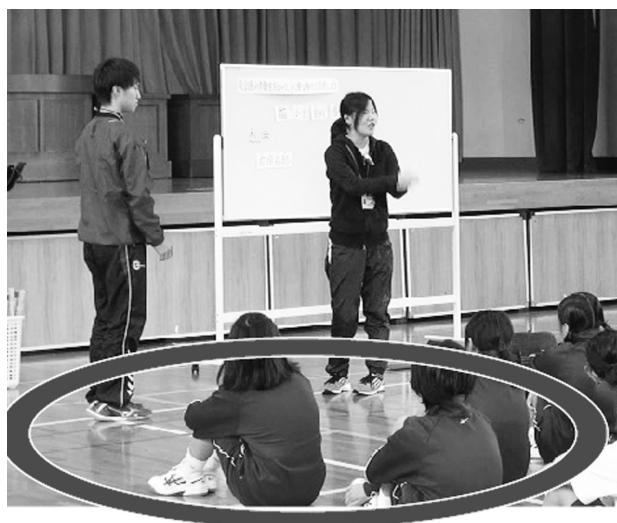


写真 1 体育館シューズの使用

2時間目より素足で行った。



写真2 素足での授業

《段階的指導法2》楽しさからの対人的動きの学習
楽しさを意識させ、相手の動きをできるだけ正確にまねをさせた。2人1組で相手と同じ動きをした。



写真3 動きをまねする動き（教師の見本）



写真4 動きをまねする動き（生徒）

次の段階では2人1組で相手と違う動きをさせた。時間を決めて交互に行った。



写真5 相手と違う動き（教師の見本）



写真6 相手と違う動き（生徒）

《段階的指導法3》大きな声をだす学習

2人1組となり、5～6メートルはなれた距離から、1人は目を閉じ、自分の名前を呼ばれた方向に目をつぶったまま進み、自分の名前を呼んでくれたパートナーと握手ができた時に目をあけるようにした。みんなで一斉に行うため、声が小さいと自分の名前が聞こえず、進むことができない。



写真7 声だしを始める前の位置関係



写真8 目をつぶった相手の名前を呼びながら握手

さらに、次の段階では片方が体育館のセンターサークル内に集合し、目をつぶるまたは手ぬぐいで目隠しをする。その後、パートナーは体育館の隅に移動し、遠い距離から名前を呼ぶようにさせた。より大きな声が出ないと握手することはできないよう設定した。(写真なし)

《段階的指導法4》 相手と呼吸を合わせる学習

最初は1メートル程度離れた距離で、2人1組となり、相手と向き合う。手に竹刀を持ち、床に竹刀を立てた状態から、竹刀が床に倒れるまでの間に自分が相手の竹刀を取りに行く、相手も同様の動きをさせる。ここでは、相手の動きと自分の動きを同調させることが大切であり、そのための呼吸の合わせが必要となる。

次の段階としては、徐々に相手との距離を長くする。さらに、竹刀ができるだけ長く床に立つ竹刀の置き方、また、倒れる竹刀は取る人側に必ず倒れることなどが必要であると自覚できるように指導しなければならない。



写真9 竹刀立てダッシュ

相手と呼吸を合わせ、相手との間を一定にしながら、前後左右のすり足で足運びの練習を行った。



写真10 相手と向かい合い前後左右のすり足練習

《段階的指導法5》 竹刀の代用品を使用

附属中学の竹刀は中学男子用の竹刀であり、重量があり、女子にはかなり重く感じている者が多いと思われる。よって、竹刀の持ち方・振り方の指導では新聞紙を巻いて作った棒を使用した。



写真11 新聞紙の棒（竹刀代用）の持ち方指導



写真12 新聞紙の棒での振り方実践

防具をつけた場合も最初は新聞紙の棒を用いた技練習を行った後に、竹刀を用いた技練習の指導を行った。



写真13 新聞紙の棒での胴打ち



写真14 竹刀での胴打ち

新聞紙の棒を用いた「面抜き胴」の技練習を行なった後に、竹刀を用いた「面抜き胴」を行うようにした。この技は最終日（5時間目）に6人組グループを作り、グループ内で発表会を実施した。



写真15 新聞紙の棒での面抜き胴



写真16 竹刀での面抜き胴（発表会）

《段階的指導法6》 竹刀操作の前に竹刀を使わないイメージトレーニング

先述したように、附属中学校の竹刀は中学男子用の竹刀であるため、素振りの前にはイメージトレーニングを行った。特に竹刀を振りかぶる際にはバンザイのイメージを持つことを指導した。



写真17 振りかぶり(バンザイ)のイメージトレーニング



写真18 竹刀をもった振りかぶりのイメージトレーニング

胴打ちの前にもイメージトレーニングを行った。



写真19 胴打ちのイメージトレーニング

4. 段階的指導法の検討

授業の感想は授業ごとに女子77名の5時間分をエクセルにデータ入力し、さらに、KJ法（川喜田1970）により、下記写真のように内容分析をおこなった。その、詳細については、紙幅の関係で省略するが、ここでは、筆者らが取り組んだ段階的指導法に関連する記述をピックアップし、検討した。

1) 素足の抵抗感対策

これに関する感想記述はなかった。このことは、今回の時期は例年に比べ、暖かかったことや初めて素足になった2時間目は体育館が使えず、暖房のある多目的講義室で行ったことも素足の抵抗感を感じなかった要因かもしれない。

2) 楽しさからの対人的動きの学習

- ・ペアの活動は楽しかった。
- ・体全身を使ってジェスチャーをして楽しくでき、体を動かすことができよかった。
- ・相手のものまねをするのがとてもおもしろかった。恥ずかしがらずにできて良かった。

その他18件、対人的動きの楽しさに関連する記述がある。この「楽しさからの対人的動きの学習」の段階的指導法は大きな成果があったものと言えよう。

3) 大きな声をだす学習

- ・大声を出すのは苦手でありイメージはなかったけれど、実際に体験するととても楽しかった。
- ・離れたところから友達の名前を叫ぶのが1番楽しかった。
- ・剣道では大きな声を出さなければならないことに驚きました。
- ・はじめは大きな声を出すのは恥ずかしかったけれど、やっている内に慣れました。

その他、声に関する肯定的な記述が12件あり、この「大きな声を出す学習」の段階的指導の導入部分は成功と言える。そのことは、剣道での大きな発声につながる可能性を示したものと思われる。

4) 相手と呼吸を合わせる学習

- ・竹刀が倒れないようにするには素早く動けばいいと思いました。
- ・相手の竹刀が倒れる前に取りに行くというのは良い運動になった。楽しかった。

等の記述はあったが、相手との呼吸という観点に生徒たちの意識が向かっていないことは明らかである。このことは、中学生の剣道初心者には動きへの意識はあるものの、目に見えない呼吸を意識することの難しさを感じていると考えられる。

5) 竹刀の代用品を使用

- ・新聞紙だったので軽し、安全で良かった。
- ・新聞紙の棒で少しだけコツをつかんだ。

等の新聞紙を使うことの肯定的な記述は7件あった。逆に「新聞紙ではなく、竹刀でしたい（逆にわかりにくい）」との記述もあった。この記述は剣道経験者によるものと思われるが、早く竹刀での実践がしたいとの気持ちの表れと見ることができる。しかし、竹刀の長さや重さへの対応と新聞紙の棒での授業実践との間にギャップがあることは事実として、受け止めておきたい。

また、次の竹刀使用への待望も以下のように記されている。

- ・早く竹刀を持ってみたい。
- ・次は竹刀でやるそうなので楽しみです。
- ・早く竹刀で素振りをしたい。

その他、同様の記述が10件あった。多くの女子中学生に最初の剣道授業で新聞紙の棒を使用することで、竹刀への興味と関心が増していることが推察できる。

6) 竹刀操作の前に竹刀を使わないイメージトレーニング

このことに関する感想記述はなかった。筆者らは竹刀の振りかぶりや技のイメージを伝える方法として有効と

考えているが、イメージと現実の初心者レベルの感覚に大きなずれがあるのかもしれない。

このイメージトレーニングと実際の動きの差がどのようなものであるのか、今後さらなる実証的なデータの蓄積と試行錯誤が必要な分野であると思われる。



写真20 1時間目の感想



写真21 2時間目の感想



写真22 3時間目の感想



写真23 4時間目の感想

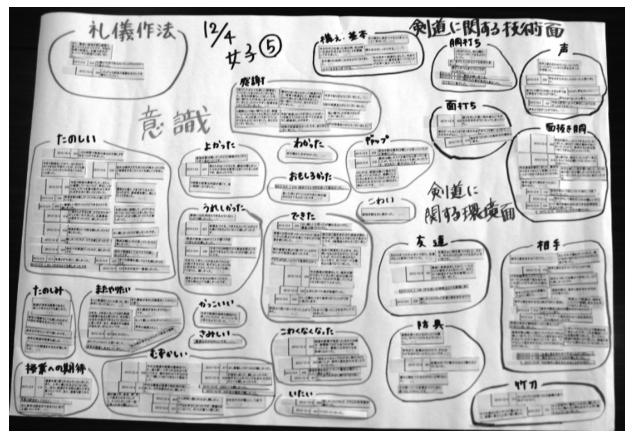


写真24 5時間目の感想

5. おわりに

今回の研究では段階的指導法の検討として、以下の内容を含んだ授業実践がなされた。

- 1) 素足の抵抗感対策
- 2) 楽しさからの対人的動きの学習
- 3) 大きな声をだす学習
- 4) 相手と呼吸を合わせる学習
- 5) 竹刀の代用品を使用
- 6) 竹刀操作の前に竹刀を使わないイメージトレーニング

いずれも、筆者らが長年の剣道授業実践から考え出されたものではある。しかし、1) 素足の抵抗感対策として、女子では1時間目は体育館シューズを使用したのが、男子では教員からの指示ではなく、1時間目から素足で生徒自ら授業参加しており、そのまま素足での授業となっている。これは、剣道授業期間の前半が女子、後半が男子であったため、終盤の女子が素足で剣道をしている場面を男子生徒が見ており、剣道は素足で行うものと認識が形成され、違和感なく、1時間目から素足で授業が実施できている。さらに、天候に恵まれ、体育館での底冷えがなかったことも幸いしていると考えられる。

また、5) 竹刀の代用品として、女子の最初に新聞紙の棒を使用した。男子では最初から竹刀を使用している。これは、男子生徒には腕力もあり、早くから打ち合いをしたいという運動欲求を授業者(大学院生 A)が感じ取ったためである。先述したように大雨警報や学校行事による授業変更等の関係で、男女の授業時数に差があり、男女差の検討はできていないが、運動欲求や体力差を考慮した中学生の剣道授業が構想されるべきである。

さらに、授業ごとの詳細な授業感想のデータを客観的な視点に立った分析も必要である。具体的には、感想データをテキストマイニングの方法を用いて分析し、共起ネットワークからの関係性を推察するのも一案かと考えている。

生徒の運動欲求や環境等の様々な要因を考慮しつつ、剣道の段階的指導は必要であり、どのように生徒に剣道を学習してもらうか、様々な試行とデータの蓄積、さらに公開が必要になってくるものと思われる。

引用・参考文献

- 1) A. ベネット: クリケットと剣道と国際化(第5回剣道文化講演会), 『剣窓』全日本剣道連盟, p12 - 16, 2007.2
- 2) 木原資裕, 浅見裕, 大塚忠義, 松村司朗, 横山直也, 草間益良夫, 山神眞一, 境英俊, 太田順康: 剣道実践にともなう阻害要因の検討—経験年数による違いを中心に—, 武道学研究, 28 - 1, 1995, p33 - 46
- 3) 木原資裕, 檜垣俊介, 小林弘樹, 李 柔那: 中学校剣道授業における指導内容の検討 —指導歴30年教師の剣道授業を中心に—, 鳴門教育大学授業実践研究, 10, 2011, p83 - 91
- 4) 木原資裕, 江口大祐, 森明日香, 草間益良夫, 坂東隆男: 小学校における簡易試作用具を用いた剣道授業実践, 武道学研究 42 - 1, 2029, P 9 - 21
- 5) 川喜田二郎: 続・発想法—KJ法の展開と応用, 中央公論社, 1970
- 6) 本村賢一: 中学校運動部活動における指導者と部員の意識構造 —徳島県下中学校剣道部の指導者と部員の意識を中心に—, 鳴門教育大学大学院修士論文, 2004
- 7) 文部省: 中学校 学習指導要領 平成10年12月・解説—保健体育編—, 東山書房, 1999
- 8) 文部科学省: ホームページ <http://www.mext.go.jp>
- 9) 中村民雄: 剣道辞典—技術と文化の歴史—, 島津書房, 1993
- 10) 大塚忠義: 剣士に告ぐ—日本剣道の未来のために—, 窓社, 2005
- 11) 大塚忠義: 日本剣道の歴史, 窓社, 1994
- 12) 大塚忠義: 日本剣道の思想, 窓社, 1994
- 13) 大塚忠義, 宇都宮伸二, 坂上康博: のびのび剣道学校, 窓社, 1990
- 14) 角正武: 剣道年代別稽古法—道の薫り—, 体育とスポーツ出版社, 2000
- 15) 高橋建夫編著: 体育授業を観察評価する—授業改善のためのオーセンティック・アセスメント—, 明和出版, 2003
- 16) 高橋建夫編著: 体育の授業を創る—創造的な体育教材研究のために—, 大修館, 1994
- 17) 武田庸助, 林修, 梅野圭史, 木原資裕: 体育授業における人間関係力を高める運動教材の開発過程に関する研究—小学校4年生: スポーツチャンバラにおける学習過程の最適化—, 教育実践額論集, 第8号, 2007, p197 - 209
- 18) 好村兼一: 剣道再発見—剣道の「深み」を求める稽古法—, スキージャーナル, 2007
- 19) 湯野正憲, 岡憲次郎, 土居安夫, 菅原東: 剣道指導ハンドブック, 大修館書店, 1980
- 20) 全国教育大学剣道連盟編: 教育剣道の科学, 大修館書店, 2004
- 21) 全国教育大学剣道連盟編: ゼミナール剣道, 窓社, 1992
- 22) 全国教育大学剣道連盟研究部会編: 剣道の学習指導, 不昧堂出版, 1987
- 23) 全日本剣道連盟編: 安全で効果的な剣道授業の展開ダイジェスト版 第2版, 全日本剣道連盟, 2014